

# 持続可能な「ふくし社会」を創る ふくし・マイスター News

## ふつうのくらしのしあわせをつくりだす 「ふくし・マイスター」を目指そう！



### ■ 2015年度入学生「ふくし・マイスター」修得報告

文部科学省平成26(2014)年度「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に、本学の「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」が採択され、5年間にわたり取組を進めてきました。

2019年3月16日(土)、学位記授与式にて、卒業生の半数以上にのぼる648人が初めて「ふくし・マイスター」の修了証を授与されました。これからも地域に関わりをもち、様々な地域課題の解決に取り組み、ふくし社会を担う人材として活躍することを期待しています。



### ■ 「ふくし・マイスター」の卒業後の意気込み！

#### 社会福祉学部 [A. Oさん]

地域とのつながりづくりや日頃からの関係性作りの大切さなどを、大学での学びを通して学ぶことができた。そのため卒業後は、地域の方々と積極的に関わっていきながら、より多くの人たちが地域とのつながりを持って生活できるための関わりに携わっていききたいと思っている。

#### 子ども発達学部 [A. Sさん]

地域に関する学習での学びで、自分は地域を含めた周りの環境や人々に活かされているのだと実感することができた。卒業後は、地域に生きる子どもへの支援を保育士の立場として行っていけたらと思う。

#### 健康科学部 [K. Sさん]

日本福祉大学で、この4年間で学んできた、「ふくし」が、日々の日常生活で当たり前になっていた。しかし、意味や考え方を知ってからは、日々ふつうに暮らせることに感謝して、生活に結びつけていきたいです。

#### 経済学部 [A. Oさん]

私の住む地域は知多半島ではないので、卒業後にこの講義で学んだ知多半島の歴史や取り組みを生かせる場は少ない。しかし、他所を知ることで、地元の問題点や改善点を見つけられるヒントにはなると思う。今回学んだことは、ぜひ自分の住む地域をより良くするための提案に活かそうと思う。

#### 国際福祉開発学部 [S. Mさん]

まずは、自分から率先してやっていくというよりは、地域ですでに活動されているグループに加わり、何かできることをやっていきたいと思っています。そういった活動を通して、さらに地域活性化に貢献していければ良いと思っています。

#### 看護学部 [A. Oさん]

地域について学ぶことで、その地域にとってなにが問題にあるのか、また、なにを必要としているのかを知ることができた。そのため、自分にとって地域になにができるのかを考えて、地域に貢献していきたい。

### ■ 「ふくし・マイスター」になるには・・・

- ①「所属学部+全学教育センター」の「地域志向科目」の中から、卒業時まで10科目20単位以上を修得
- ②1年次から4年次まで、毎年「nfu.jp」上で『リフレクション』を実施

## ■COCディ「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ

全学教育センターが開講する地域志向科目の「知多半島のふくし」(担当:佐藤大介助教)は、「ふくし」の視点で知多半島を見つめ、各学部の専門性を活かしつつ、地域特性や課題を理解し、地域への働きかけや多分野・多職種の連携によって課題の解決策を見出すことを目的としています。

COCディでは、本学が目ざす「ふくし(ふつうのくらしのしあわせ)」の価値を共有し、その実現に向けて学生と地域住民が学びあう場として、3つのキャンパスの特色を生かし、それぞれの地域課の題に対応したテーマでシンポジウムを開催しました。

### 美浜キャンパス



2018年12月20日(木)  
 「誰もが参加できるスポーツイベントの  
 取り組みと課題」をテーマに開催

### 半田キャンパス



2019年1月24日(木)  
 「亀崎における地域活性のまちづくりと  
 地域連携」をテーマに開催

### 東海キャンパス



2019年1月25日(金)  
 「東海市の防災・減災を考える～過去の  
 大規模自然災からの学びを通して～」  
 をテーマに開催



## ■ふくしAWARD2018 ～応募55作品の中から大賞に輝く！

2019年1月29日(火)に学内プレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD2018」を開催し、最終審査に残った8作品のプレゼンテーションを行いました。全体テーマ「地域に根ざし、世界を目ざす「ふくし」の学びを伝えよう！」のもと、各学生は授業で調査したことや正課内外の地域活動を通して学んだことなど、それぞれ高い関心を寄せる個々のテーマを発表しました。



	賞	作品テーマ	発表代表者
英語部門	大賞	Business and Society: Working Together to Make a Better World	国際福祉開発学部 4年 浅野 光映
	準大賞	Easy Japanese in our local community	国際福祉開発学部 3年 市川 野乃
	奨励賞	New style of shopping arcades	国際福祉開発学部 1年 鳥居 愛
	入選	Changing Education	国際福祉開発学部 1年 伊藤 駿

	賞	作品テーマ	発表代表者
日本語部門	大賞	子どもの「自立」とは？ ～児童養護施設で過ごした3日間を通して～	社会福祉学部 1年 加藤 正幸
	準大賞	福祉の新たな発信方法について	社会福祉学部 3年 宇井 真輔
	奨励賞	愛知県Diversity(ダイバ-シティ×市)化	国際福祉開発学部 4年 新堀 亮
	学長特別賞 入選	災害に対する意識改革	社会福祉学部 1年 蔭島 佑樹

## ふくし・マイスター

### 【第4回知多半島フィールドワークEXPO 開催】



2018年10月12日(金)に美浜キャンパスにて、第4回知多半島フィールドワークEXPOを開催しました。2自治体、11団体、150人を超える学生・教職員が参加し、地域団体と交流を深める機会となりました。

### 【第4回東海市地域大円卓会議開催】



2018年11月20日(火)に東海市芸術劇場多目的ホールにて、第4回東海市地域大円卓会議～東海市の中心で夢を叫ぶPartⅢ～が開催されました。学生や教職員を始め、行政関係者、一般参加者など約80人が参加しました。

■ **ふくしフィールドワーク実践** ～知多半島の市町の地域課題解決に向けて、学部横断的に多職種・多分野連携のあり方を学ぶ～

知多半島の地域課題の解決に向けて、学部横断的に多職種・多分野連携のあり方を学ぶ場として、2017年より開講しました。全学部生の混成クラスを複数開講し、地域社会での体験学習を重視したサービスラーニングの教育方法を取り入れ、「事前学習、フィールドワーク、事後学習」を集中的に展開して学びを深め、「地域を創造していく力」を身につけることを目的としています。美浜町・半田市・東海市に位置する各キャンパスの特色を生かし、それぞれの地域課題に対応したテーマで、1月12日(土)に導入講義を行い、2月下旬にフィールドワークと振り返りを行いました。

**美 浜 町**

ふくしスポーツを核にした地域の関係づくりー子どもの異年齢間交流を通じてー

2月16日(土)から18日(月)に植田真帆助教の指導のもと、社会福祉学部、子ども発達学部の学生が参加し、スポーツやレクリエーションでの交流を通して、地域のつながりを深めるプログラムの企画・運営を行いました。16日(土)は、美浜町スポーツ推進委員会が主催するカローリング大会に参加し、17日(日)は、南知多おもちゃ王国の共催で開催する「おやこでランRUNスクール」を実施しました。“スポーツ”をキーワードに地域を知り、調べ、関わり、“具体的に動く”ことで、地域の繋がりをさらに広げ深める“結ぶ力”を培う機会となりました。



**半 田 市**

一人の暮らしを皆で支える地域包括ケアー多職種連携ー

2月20日(水)から22日(金)に藤井博之教授の指導のもと、社会福祉学部、看護学部、健康科学部の学生が参加し、地域包括ケアを支えるための多職種連携について、社会福祉協議会や地域住民(当事者)と協力をしながら、対象とする方々の状況に合わせたケアプランの企画・準備・運営を行いました。障害のある当事者の在住地域のフィールドワークを通して、地域理解と当事者理解を深めることで、それぞれの学部の学びを学生同士が横断的に共有・活用することにより、多職種連携を意識した課題解決に取り組む機会となりました。



**東 海 市**

東海市の地域課題を理解し、課題解決のための各主体の役割を学ぶ

2月18日(月)から20日(水)に加茂浩靖教授の指導のもと、国際福祉開発学部、健康科学部の学生が参加し、東海市の防災、観光、企業、福祉施設等のフィールドワークを通して、地域課題解決に向けた多職種連携のあり方について体験学習を行いました。そして、命を守り支え合う災害時のヒューマンケア、いきいき暮らせるまちを作る 地域デザイン等をテーマに、東海市の地域課題への理解を深めました。学生は、興味のあるテーマを選び、多職種・多分野と連携による解決策を発表し、地域社会に還元することで、地域を創造する力を培う機会となりました。



■ **中部圏COC事業採択校「学生交流会」で報告!**



2019年3月1日(金)、岐阜大学と金沢工業大学が共催で、中部地区COC採択校の「学生交流会」が、ぎふメディアコスモスの「みんなのホール」で開催されました。

本学から社会福祉学部医療専修1年の「総合演習(佐藤ゼミ)」の学生4名(「ふくしAWARD」日本語部門大賞)が、「子どもの「自立」とは?～児童養護施設で過ごした3日間を通して～」というテーマで、常滑市の児童養護施設で行った活動と、「総合演習」の中で自立支援や施設における自立などの文献学習を踏まえて、子どもの自立について報告を行いました。



## ■日本福祉大学COC成果報告フォーラムを開催しました。

2019年2月26日(火)、美浜キャンパスにて日本福祉大学COC成果報告フォーラムが開催されました。

2014(平成26)年度より、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受け、知多半島内の自治体や民間団体等と相互に関係を持ちながら地域課題解決に取り組んできました。今回は、この5年間の活動実績について報告し、本事業で得た成果・仕組みと持続可能な地域における地(知)の拠点大学のあり方を考えることを目的に開催し、地域住民の方、自治体関係者、社会福祉協議会、NPO法人、企業、学校関係者や学生ら約80人が参加しました。

### 第Ⅰ部 大学COC事業の概要説明と報告



児玉善郎学長より、COC事業に協力くださった自治体関係者および地域関係者に対して感謝の言葉と本事業の「総括」について報告をしました。「教育」の取組と成果については、中村信次全学教育センター長より、「研究」「社会貢献」の取組と成果については、千頭聡地域連携推進機構長より報告しました。

### 第Ⅱ部 ポスターセッション



「教育」「研究」「社会貢献」の領域にわたるそれぞれの活動紹介、計20のパネルが並び、各担当者と参加者間で活発な交流がされました。地域というフィールドの中で、教育「研究」「社会貢献」を相互に関わらせながら事業を展開してきたことをポスターセッションを通じて確認できました。

### 第Ⅲ部 シンポジウム(COC事業成果の評価)



原田正樹学長補佐のコーディネートのもと、学生、地域関係者、行政関係者、中村信次全学教育センター長、千頭聡地域連携推進機構長が登壇し、それぞれの取組と成果・課題について報告をしました。5年間で積み重ねた成果をもとに、引き続き大学独自の事業として、地域の連携・協力を更に深めることを確認しました。

## Cラボの取組を通じて

### Cラボ美浜

社会資源が少なく自然があふれるこの地域は人と人との関係性を他の地域よりも大切にしています。その中で学生は、地域に出て人と繋がっていく醍醐味や繋がりから新しい物を見出す経験をしながら、多世代の関係性やコミュニケーションをどう作っていくかを考え活動してきました。学生の考えを地域に戻し、地域は学生の発想を大切に、よりいい物になるよう地域の方と連携を進めていくことが重要だと思います。

それらの実践が出来る  
ことが、学生にとっても  
大きな学びとなると  
考えています。



廣澤節子アドバイザー

### Cラボ半田

「学生ならではの強みと弱み」、「地域の方々の強みと弱み」。それぞれがお互いを補完し合う関係性を構築しながら取り組みを行うことで、地域の方々に本当に受け入れられる連携を行うことができたような気がします。学生たちもこういった取組を利用しながら、あらゆる世代の方々とコミュニケーションを図ったり、自分の考えをまとめて発表したりする経験をすることで、学内の教育だけでは得ることのできない、大きな学びを得ることができました。



池脇啓太コーディネータ

### Cラボ東海

「まずは挑戦」を合言葉に自分のスタイルで地域に出てみることを実践していきました。

学生たちは、その中で悩みながらも、まずは「形をつくること」から学びました。その過程で、地域の方に相談したり、激励されたり、様々な支援をいただくことで、学ぶことへのエネルギーに変えて行ったと思います。「まちづくり」は「ひとづくり」と言われます。

まだまだ、多くの人財が東海キャンパスに潜在していると信じています。



村松愛子コーディネータ

